

# 表- 岩の分類と判定基準

名称			説明	適用	国土交通省岩分類	変成岩および堆積岩										堆積岩					火成岩															
						主として古生代										中世代		第三紀		深成岩			火山岩													
A	B	C				片麻岩	砂質片岩	黒岩片岩	緑色片岩	千枚岩	珪岩・角岩	石灰岩	砂岩	粘板岩	輝緑凝灰岩	粘板岩	頁岩	砂岩	れき岩	頁岩泥岩	砂岩	凝灰岩	凝灰角礫岩	花こう岩	セン緑岩	ハンレイ岩	カンラン岩	蛇紋岩	流紋岩	ヒン岩	安山岩	玄武岩	集塊岩			
	岩塊玉石	岩塊玉石	岩塊、玉石が混入して掘削しにくく、バケツト等に空隙のでき易いもの 岩塊、玉石は粒形7.5cm以上としまるみのあるものを玉石とする。	玉石まじり土岩塊起砕された岩ごろごろした河床																																
岩 ま た は 石	軟岩	軟岩Ⅰ	第三紀の岩石で固結の程度が弱いもの、風化がはなはだしくきわめて脆いもの、指先で離しうる程度のもの亀裂の間隔は1~5cmくらいのも及び第三紀の岩石で固結の程度が良好なもの、風化が相当進み多少変色を伴い軽い打撃で容易に割れるもの、離れやすいもので、亀裂間隔は5~10cm程度のもの	地山弾性波速度 700~2800m/sec	軟岩Ⅰ	A	●		●			●	●				●	●		▲																
		軟岩Ⅱ	凝灰質で堅く固結しているもの、風化が目によって相当進んでいるもの、亀裂間隔が10~30cm程度で軽い打撃により離しうる程度、異質の硬い異層をなすもので層面を楽に離しうるもの			軟岩Ⅱ	A	▲	●		●	●	▲	▲			▲	▲		▲	▲		○	○			▲	▲	●	●	▲	▲	▲			○
	硬岩	中硬岩	石灰岩、多孔質安山岩のように、特にち密でなくても相当な堅さを有するもの、風化の程度があんまり進んでいないもの、硬い岩石で間隔30~50cm程度の亀裂を有するもの	地山弾性波速度 2000~4000m/sec	中硬岩	A	△	▲		△	▲	○	△		△	△	○	△	○					△	△	△	△	◎	△	△	△	△				
		硬岩Ⅰ	花崗岩、結晶変岩等で全く変化していないもの、亀裂間隔が1m内外で相当密着しているもの、硬い良好な石材を取り得るようなもの			硬岩Ⅰ	A	○	△		○		○						○							◎	◎	◎	◎		○	○	○	○		
	硬岩Ⅱ	けい岩、角岩などの石英質に富む岩石で最も硬いもの、風化していない新鮮な状態のもの、亀裂が少なく、よく密着しているもの	地山弾性波速度 3000m/sec以上	硬岩Ⅱ	A		◎				○	◎																								

● 全体に変化が進み変色しているもの。  
 ▲ 割れ目に沿って幅広く風化しているが球状、レンズ状に未風化部を残すもの。  
 △ 割れ目に沿って風化変色が少なく、岩片内部は新鮮なもの。  
 ○ 割れ目が少なく風化変色がほとんどなく新鮮で硬いもの。  
 ◎ 岩石が特に硬く全く新鮮なもの。

\* Aグループは、花崗岩・安山岩・砂岩・珪岩のように、造岩物質、固結度共に固く、風化が進み、亀裂が入って、弾性波速度が遅くても、岩片耐圧強度の高い岩種類。  
 \* Bグループは、頁岩・粘板岩・黒色片岩のように、造岩物質が軟らかく、風化が進むと泥化し新鮮なもので弾性波速度が早くても、岩片耐圧強度の低い岩種類。  
 注) 輝緑凝灰岩は、地質資料によっては玄武岩質火山噴出物（火砕岩、溶岩）と呼称される。